

事例 4

# 衝動的な行動を抑えられない中学生への支援

背景や要因  
発達障害の理解不足による二次障害

## 1 気になる状況

### 相談内容

中学3年生男子  
衝動的な暴力行為への対応

### 経緯と現状

両親は、本人が小学4年生の時に離婚している。以後、母親と祖母に養育される。祖母は、体が不自由である。  
小学校の時からトラブルが多く、小学5年生の時には些細なことから友人を殴ってしまった。中学校に入り、リストカットや頭を壁に打ち付けるなどの自傷行為が多くなった。  
現在は、攻撃的な行為が増え、何らかのきっかけで衝動的に器物破損や教師・友人に対して殴る蹴る等の暴力を繰り返している。

学校

SSWrを  
要請

SSWr

- 相談の詳細を確認するため学校を訪問し、管理職や担任、養護教諭等から情報収集を行った。
- 緊急性が疑われたので、教育事務所のいじめ・不登校等対策チームで今後のSSWrの対応方針について検討・確認し、まずはケース会議までの対応について、学校へ助言した。
- 現在までの関係機関との連携について確認した。

SSWr

### 学校にケース会議開催を提案

- 参加者の選定や連絡・調整について助言
- 会議にも参加し、支援策について助言

## 2 ケース会議

### アセスメント（課題の背景や要因の見立て）

本人について (生育歴、学校や家庭での様子など)	家族について (保護者・兄弟姉妹等の状況など)	その他 (経済状況、地域社会との関係、家庭の様子など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼小時代から養育は祖母が中心であった。</li> <li>● 部活動は、小学校から継続している野球部に所属している。</li> <li>● 学力は低い。</li> <li>● 現在のクラスには、仲の良い友人が数人いる。友人は、本人の事をよく理解している。</li> <li>● 衝動的な行動が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両親は、本人が小学4年生の時に離婚している。</li> <li>● 本人、母親、祖母との三人暮らしである。</li> <li>● 祖母は、数年前に病気を患い、現在、体が不自由である。</li> <li>● 母親は、本人の事に関心が低く、衝動的な行動への危機意識もない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母親は、現在二つの仕事を掛け持ちしている。</li> <li>● 祖母は、体が不自由な状況であるが、福祉とのつながりが薄く、支援を十分に受けられていない。</li> </ul>

### 考えられる背景要因

- 本人の特性に応じた適切な対応が行われていないため、衝動的な行動を起こしていると考えられる。
- 学習の遅れや生活の不安要素から、自傷行為や暴力行為などにつながっていると考えられる。

### 現在行っている学校の対応

- 本人が信頼し関係が築けている教諭 …… こまめに声をかけたり、本人の話をよく聞いたりしている。
- SC …… 本人との面談を行っている。
- 教頭 …… 全教職員に本人の状況等を情報提供している。警察と連携した対応ができるよう情報共有している。

### プランニング①（課題解決に向けた目標の設定）

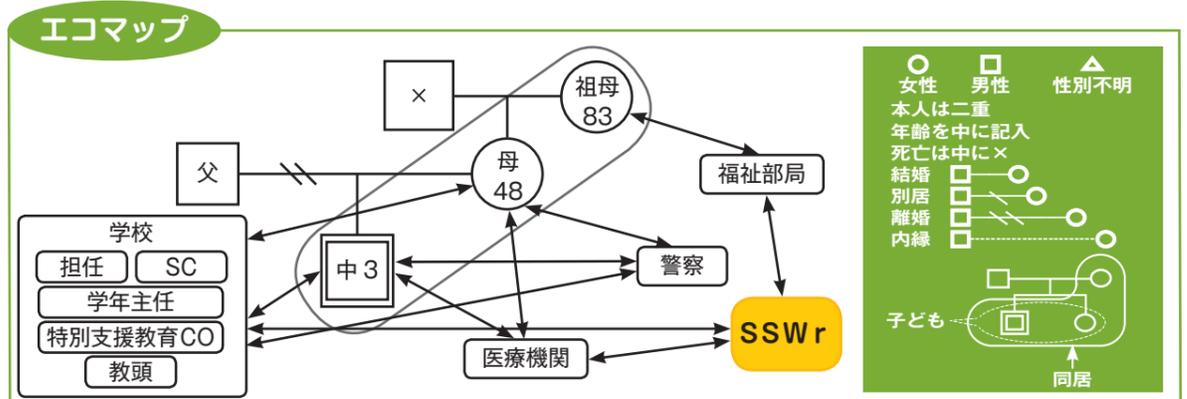
#### 長期的な目標

- 落ちついた学校生活を送ることができる。
- 目指す進路を実現することができる。

#### 短期的な目標

- 落ち着かなくなったときのクールダウンの方法を理解し実践することができる。
- 医療機関等の専門家からの指導や助言を受け入れ、実践することができる。

学校は本人の特性を理解しながら支援を続けていましたが、衝動的な行動で身体を傷付けてしまう事案が発生してしまいました。今後も衝動的な行動が起き、その行動がエスカレートしていくことを心配した学校は、関係機関との連携、特に医療機関との連携が必要と判断し依頼があった事例です。  
小学生の時に医療機関を受診していることや、暴力行為を起こした時に警察と連携していることが分かったので、関係機関を含めたケース会議の実施を提案しました。ケース会議では、情報を共有し、それぞれの立場でできる具体的な手立てについて話し合いました。ケース会議後は、継続した薬の服用をさせていくために、学校と医療機関とのつなぎ役として関わりました。  
学校を中心に自分の目標を設定させながら学習面での支援も充実させた結果、希望する高校への進学ができた事例です。



### プランニング②（具体的な手立てと役割分担の決定）

**担任・学年主任・特別支援教育CO**

- 本人の様子を把握し、些細な行動を見逃さないよう常に情報の共有をする。
- 衝動的な行動等に応じたクールダウンの方法や対策について職員会議等で情報を共有し、学校全体での支援体制を構築する。
- 進路実現に向けて学力面を支援する。

**教頭**

- 母親に、本人の医療機関への受診を勧める。

**SC**

- 本人に対して、気持ちを言語化することなどを継続的に支援する。

**警察**

- 本人に、社会的な責任について指導する。
- 母親に、本人への関わり方や、危機意識を持たせること等について助言する。

**福祉部局**

- 祖母への支援（ヘルパー派遣等）を行う。

**SSWr**

- 学校と医療機関との連携が図れるように母親の思いを代弁しながらつなぎ役となる。

### 3 その後の状況

- 衝動的な行動を起こしてしまいがちな時には相談室でクールダウンする約束を作り、実践することができた。
- 医療機関を受診し、面談、診察、検査などを経て薬の服用を始めた。本人の衝動的な行動も少なくなり落ち着いた生活を送り、また、部活動で活躍する姿も見られた。
- 薬を飲まない期間が続くと、以前のような状態に戻ってしまい、自傷行為、暴力行為が続くことがあったので、薬の服用について、学校、母親、医療機関との話し合いを続け、その都度、対応策を検討しながら本人の支援を続けた。
- 個別学習を充実させ、様々な進路情報を提供しながら、本人の進学への意欲を高めることができた。その結果、本人は希望する高校へ進学することができた。